

資料－1

提出書類の様式

提出書類一覧表

提出書類	提出部数	提出期日	備考
1 施工計画書（工程表） （資格者証等写し、雇用の分かる証明書）	1部	契約後5日以内	水道部ホームページに掲載
2 技術者配置状況表	1部	契約後5日以内	水道部ホームページに掲載
3 （現場代理人・主任技術者）兼務届	1部	契約後5日以内	水道部ホームページに掲載
4 着工届	1部	着工前	水道部ホームページに掲載
5 工事カルテ受領書（CORINS）	複写1部（工事請負代金額500万円以上の場合）	受注・変更・完成時	
6 試掘調査結果報告書 地下埋設物確認書	2部（1部返却）	施工前	（様式-1の1～2）
7 工事打合簿	2部（1部返却）	必要の都度	（様式-5）
8 施工計画書	2部（1部返却） （1.4.1記載工事は省略できる）	施工前	（様式-2の1～9）
9 再生資源利用計画書 再生資源利用促進計画書	1部（工事請負代金額100万円以上 ※副産物実施調査より決定）	施工前	建設副産物情報交換システム（COBRIS） 施工計画書に添付する
10 下請報告書（建設業許可指令書写し、注文書又は注文請書写し、内訳書）下記11,12,13も添付	1部（下請・再下請がある場合）	必要の都度	水道部ホームページに掲載
11 施工体系図	1部（下請・再下請がある場合及び監督員が指示する場合）	必要の都度	水道部ホームページに掲載
12 施工体制台帳（資格者証等写し、雇用の分かる証明書、建設業許可指令書写し）	1部（下請がある場合）	必要の都度	水道部ホームページに掲載
13 再下請通知書（資格者証等写し、雇用の分かる証明書、建設業許可指令書写し）	1部（再下請がある場合）	必要の都度	水道部ホームページに掲載
14 現場代理人等変更通知書	1部	必要の都度	水道部ホームページに掲載
15 工事日誌	1部（FAX又はメールでも可）	施工中毎日	（様式-3）
16 継手チェックシート	1部（FAX又はメールでも可）	施工中毎日	（様式-4の1～6）
17 事故報告書	2部	必要の都度	（様式-6）
18 工事履行報告書	1部	中間前金払請求時	水道部ホームページに掲載

19 認定請求書	1部	中間前金払請求時	水道部ホームページに掲載
20 工事出来形部分検査申請書	1部	部分払請求時	水道部ホームページに掲載
21 工事出来形部分内訳書	1部	部分払請求時	水道部ホームページに掲載
22 完成届	1部	完成日から5日以内	水道部ホームページに掲載
23 出来形管理図表	2部	完成日から5日以内	(様式-7の1~11)
24 工事完成図	完成検査用1部 検査後1部	完成日から5日以内 検査合格後速やかに	第5章
25 工事写真帳	監督員が指示する部数	完成日から5日以内	第6章(様式-8)
26 品質管理書類	1部	完成日から5日以内	
27 再生資源利用実施書 再生資源利用促進実施書 工事登録証明書	1部(工事請負代金額100万円以上 ※副産物実施調査より決定)	完成日から5日以内	建設副産物情報交換システム(COBRIS)
28 産業廃棄物管理票(マニフェスト)	複写1部(A票及びD票)	完成日から5日以内	
29 納品書・材料伝票等	複写1部	必要の都度	
30 引渡書	1部	検査合格後速やかに	水道部ホームページに掲載
31 請求書	1部	検査合格後速やかに	水道部ホームページに掲載
32 保証書返還請求書	1部	検査合格後速やかに	水道部ホームページに掲載
33 その他当部が必要とする書類	必要部数	必要の都度	

(様式-1の1)

(元号) ○○年度

主任監督員	監督員

○○地区配水管布設工事
試掘調査結果報告書

受注者
現場代理人

印

印

※案内図、平面図、横断面図、写真、地下埋設物確認書を添付すること

(様式-1 の 2)

地下埋設物確認書

• 確認日 (元号) 年 月 日

• 確認者

受注側 主任技術者 (直筆署名) _____

発注側 監督員 (直筆署名) _____

• チェックリスト

地下埋設物	有無	位 置	発注者 チェック 欄
電力			
NTT			
ガス			
下水道			
その他 ()			

※地下埋設物を確認できる資料を添付すること。

(様式-2の1)

施 工 計 画 書

下記に掲げる事項のうち、監督員より指示されたものを提出すること。

- 1 工事概要 (様式-2の2)
- 2 案内図及び全体計画図
- 3 実施工程表
- 4 施工方法
- 5 出来形管理計画
- 6 品質管理計画
- 7 配管材料一覧表 (様式-2の3)
- 8 主要資材一覧表 (様式-2の4)
- 9 主要機械一覧表 (様式-2の5)
- 10 現場組織表 (様式-2の6)
- 11 安全衛生管理
- 12 安全衛生管理組織表 (様式-2の7)
- 13 緊急時連絡表 (様式-2の8)
- 14 安全施設 (仮設備等)
- 15 運搬路、機械設備、電気設備、火薬類、ガス作業員の安全教育等について
- 16 資格者及び技能講習修了者等名簿及び資格証明書のコピー (様式-2の9)
- 17 再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書

(様式-2の2)

1 工事概要 (例)

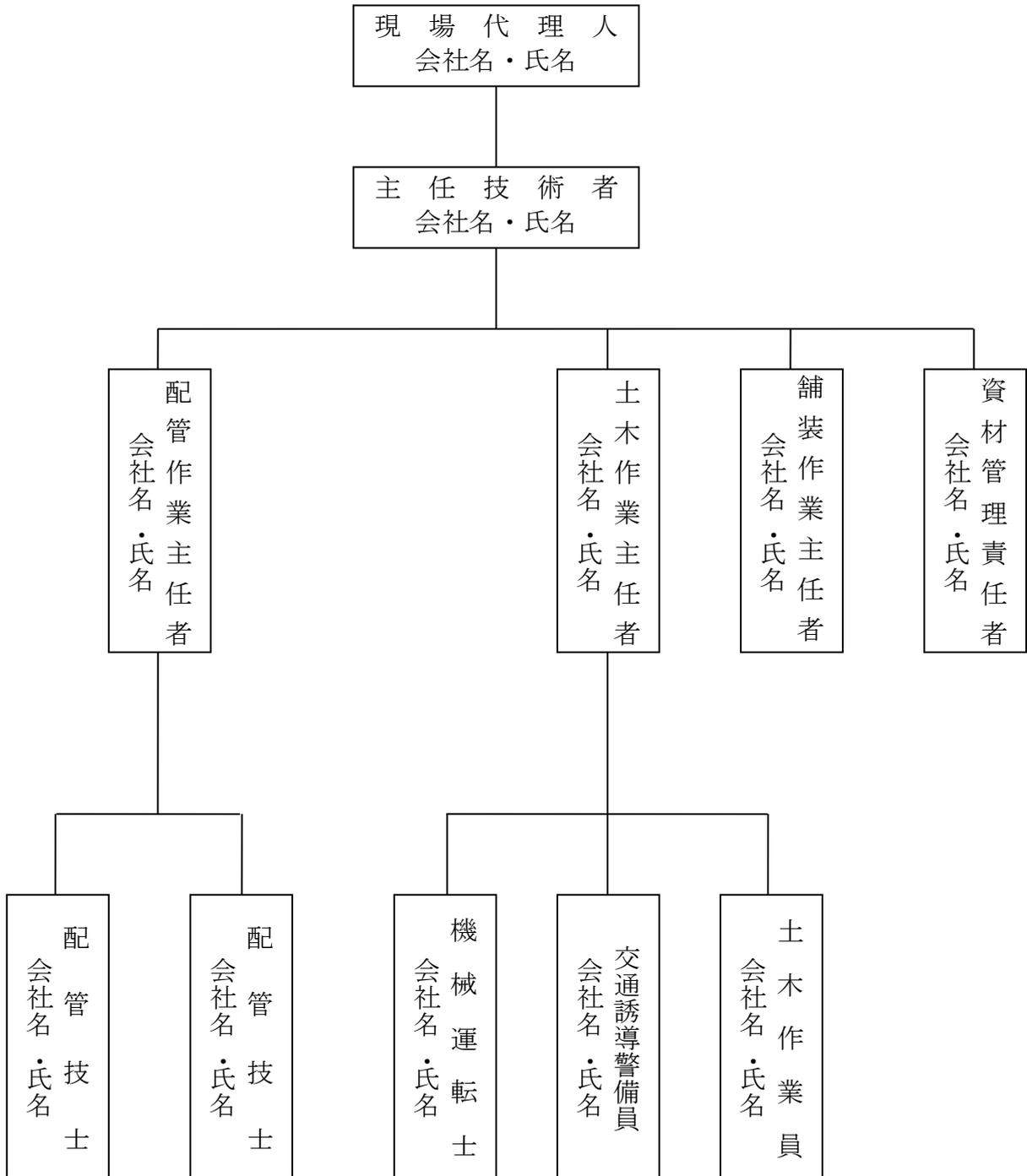
(1) 工事概要

工事名	
工事場所	
工期	(元号)年 月 日 ~ (元号)年 月 日
請負金額	¥
発注者	青森市公営企業管理者企業局長
受注者	〇〇株式会社 TEL 現場代理人 □□ □□

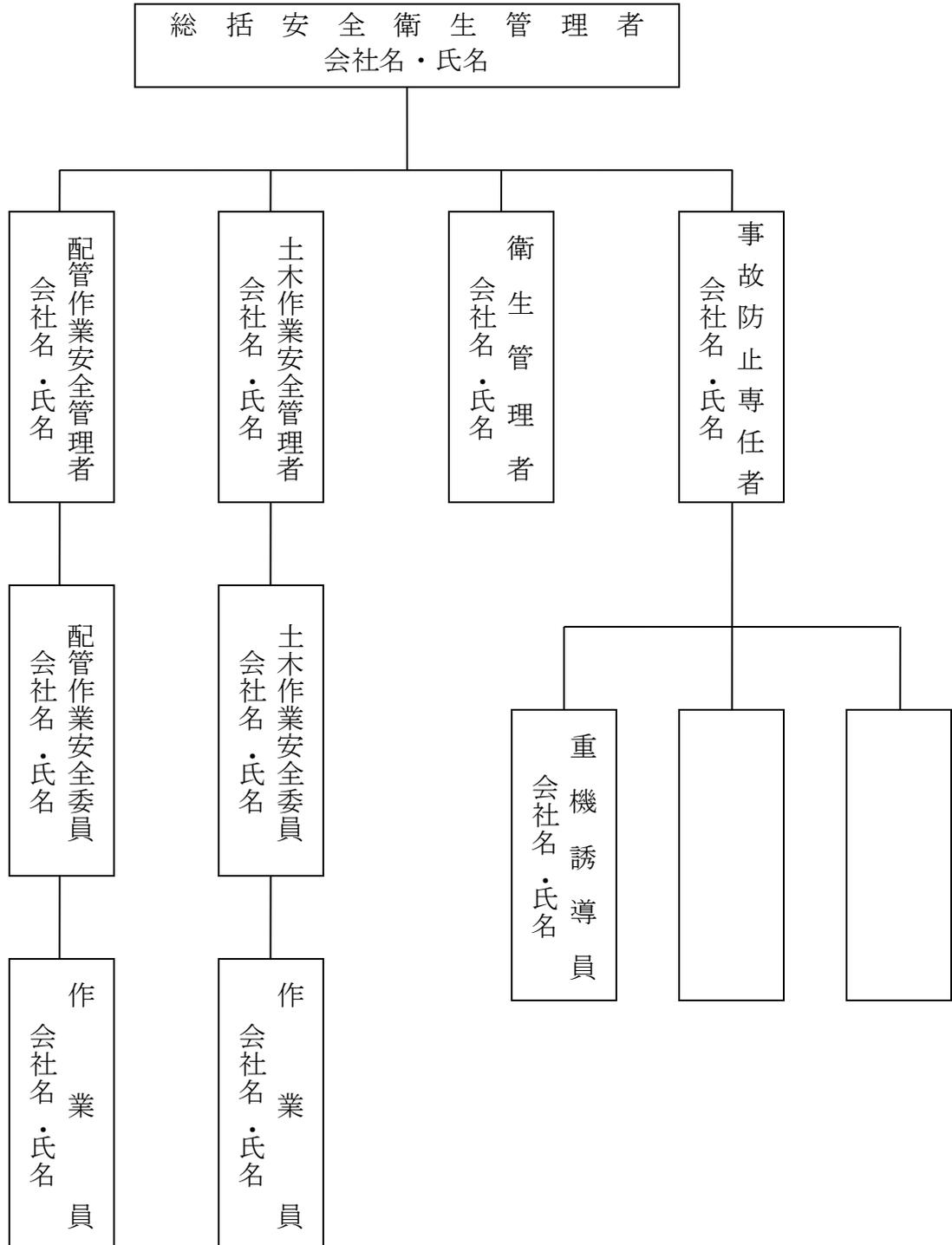
(2) 主要工事内容

工種	管種・口径	単位	数量	摘要
布設	配水管	DGXE φ 150	m	240
	〃	DKE φ 150	〃	5
	〃	DGXE φ 100	〃	7
	〃	PP φ 50	〃	7
設置	仕切弁	GX 形ソコ両受 φ 150 10k	基	1
	〃	SS 弁 φ 150 7.5k	〃	3
	〃	SS 弁 φ 100 7.5k	〃	1
	〃	SS 弁 φ 75 7.5k	〃	2 消火栓用 1 基 排水用 1 基
	〃	SS 弁 (V・S ソコ)	φ 50 7.5k	〃

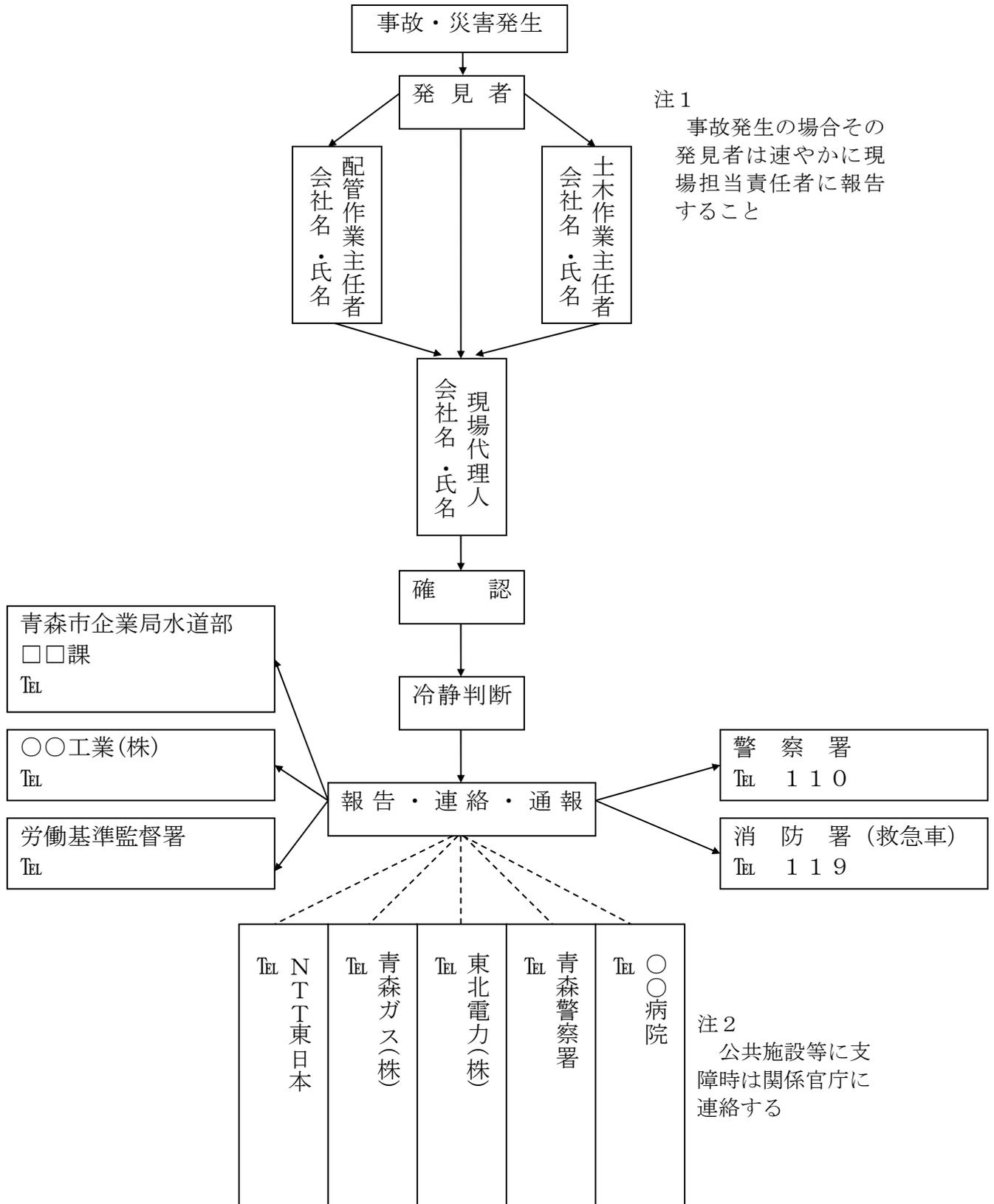
現場組織表 (例)



安全衛生管理組織表 (例)



緊急時連絡表 (例)



資格者及び技能講習修了者等名簿(例)

氏名 会社名	水道	○	○	○	○			
	太郎	○	○	○	○			
資格 技能講習修了者等	○ ○工業 (株)	○ ○工業 (株)	○ ○建設 (株)	○ ○建設 (株)	○ ○警備 (株)			
1級土木施工管理技士	○							
2級土木施工管理技士			○					
1級管工事施工管理技士	○							
2級管工事施工管理技士		○						
給水装置工事主任技術者	○							
配水管技能登録者(一般継手)								
配水管技能登録者(耐震継手)		○						
配水管技能登録者(大口径)								
地山の掘削作業主任者			○					
土止め支保工作業主任者				○				
車両系建設機械運転技能士			○					
移動式クレーン運転士			○					
玉掛業務従事者				○				
交通誘導警備員A					○			

(様式-3)

工 事 日 誌

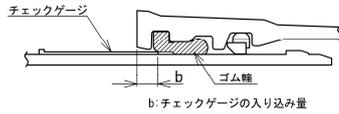
会 社 名

工 事 名						作 業 時 間		
月		日		曜日	天候	自	時	分
至							時	分
勞 務 者 内 訳		略 図						
配 管 工	人							
特殊作業員	人							
普通作業員	人							
交通誘導警備員A	人							
交通誘導警備員B	人							
合 計	人							
累 計	人							
その他必要事項 (使用材料等)								
名 称		数量		名 称		数量		

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・P-Link・G-Link】

工 事 名	
配管図 No.・測点 No.	～
呼び径・管種	
施 工 期 間	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日

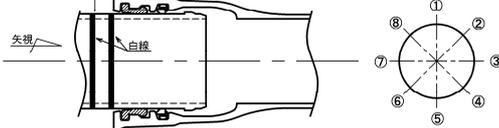
1 直管



b寸法の合格範囲

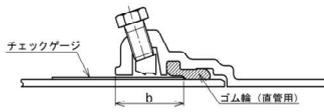
呼び径	合格範囲 (mm)
75	8～18
100	8～18
150	11～21
200	11～21
250	11～21
300	14～24
350	14～25
400	14～25
450	14～25

2



3 P-Link

締め付けトルク：100N・m

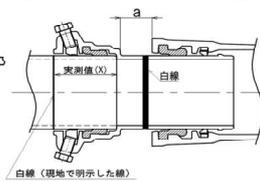


b寸法の合格範囲

呼び径	合格範囲 (mm)
75	54～63
100	57～66
150	57～66
200	63～72
250	63～72
300	70～80

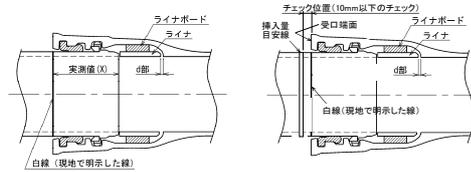
4

締め付けトルク：100N・m

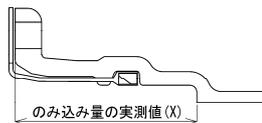


5

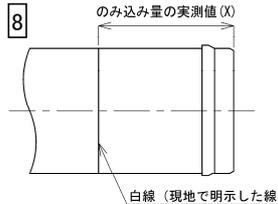
(直管挿し口を挿入する場合) (異形管挿し口、P-Linkを挿入する場合)



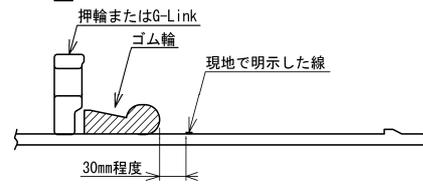
7 異形管



8

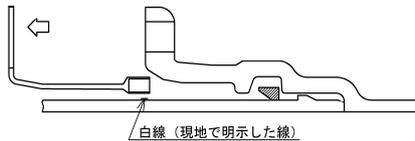


9



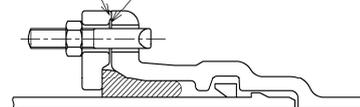
10

ストップパを引き抜く



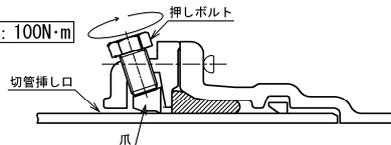
11

施工管理用突部 受口端面



12 G-Linkを使用する場合

締め付けトルク：100N・m

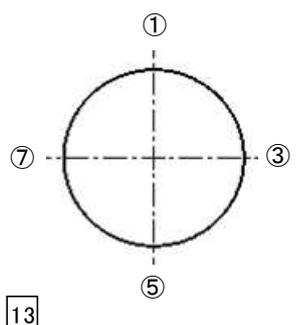
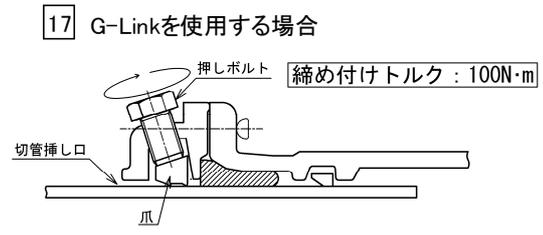
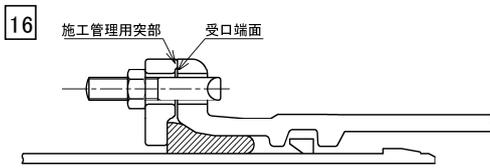
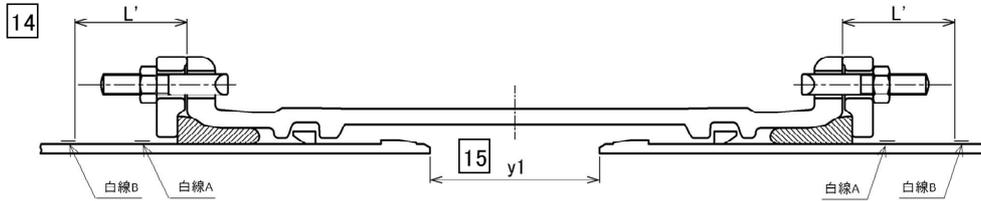


判断基準:

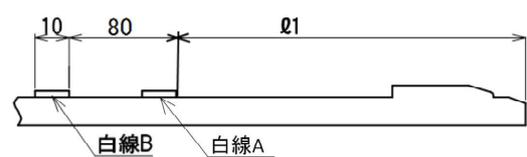
- ※1 挿し口突部の無い挿し口を異形管受口と接合する場合は、G-Linkを使用すること。
- ※2 受口端面～ゴム輪間隔(b)が表に示す合格範囲内であること。また、曲げ接合してチェックゲージがゴム輪位置まで挿入できない場合は、チェックできなかったことを記載する。
- ※3 ライナが受口奥部に当たっていることを確認する。
- ※4 接合直後にマーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあるか確認する。
- ※5 挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であるか確認する。
- ※6 挿し口外周へ受口端面位置の白線を表示したか確認する。
- ※7 挿し口を異形管受口へ挿入し、ストップパを取り外した後、挿し口を上下左右に振って抜けないことを確認する。
- ※8 受口端面と押輪またはG-Linkの施工管理用突部との間に0.5mm以上の隙間がないこと。
- ※9 一方から順次配管していく場合にはL'寸法、せめ配管の場合はy1寸法を記入すること。
- ※10 P-Linkの場合は受口端面からの直部長さ 4 a寸法を記入する。

GX形継手チェックシート【継輪】

工 事 名	
配管図 No.・測点 No.	～
呼び径・管種	
施 工 期 間	令和 年 月 日 ～ 令和 年 月 日



単位mm	
呼び径	φ1+80
75	240
100	245
150	265
200	275
250	275
300	305
350	315
400	320
450	325



(i) 一方から順次配管していく場合

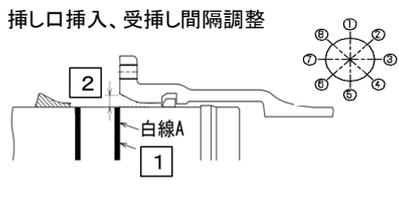
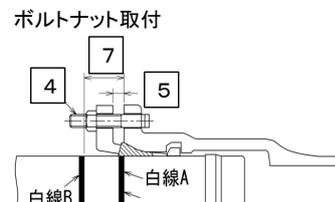
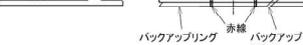
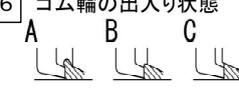
単位mm	
呼び径	L'
75	90
100	95
150	110
200	120
250	120
300	135
350	145
400	150
450	155

(ii) せめ配管の場合

単位mm	
呼び径	Y
75	190
100	200
150	240
200	250
250	250
300	300
350	300
400	300
450	300

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・継輪・フランジ・P-Link・G-Link(φ75~450)共通】												
工 事 名						現場代理人		配管作業主任者		配管技士		
配管図 No.・測点 No.												
呼び径・管種												
施 工 月 日												
管Noおよび形状												
略 図												
挿し口突部の有無※1										-		
清掃・異物の除去										-		
滑 剤										-		
接着剤使用の有無(フランジガasket)										-		
受口溝(ロックリング)・ストップの確認										-		
挿し口の挿入量の明示										4 5 7 8		
白線A,Bの明示										13		
直管・ライナ・Pリンク	受口面～ゴム輪 間隔(b)※2	全周チェック										
		①										
		②										
		③										
		④									1	
		⑤									3	
		⑥										
		⑦										
直管・フランジ・Pリンク	受口面～白線 間隔(a) (フランジ継手RF-GF メタルタッチすきまゲージ1mm 厚チェック)	①										
		③									2	
		⑤									4	
		⑦										
ライナ	ライナ位置の確認(d部)※3									5 6		
	マーキング(白線)位置の確認※4									4 5		
	挿入量目安線(赤線)と受口端面 間距離の確認(異形管挿し口)※5									6		
	マーキング(白線)の明示 (異形管挿し口)※6									6		
異形管・継輪	ストップの引き抜き									10		
	抜け出しチェック(挿し口突部有)※7									-		
	T頭ボルト 本数											
継輪	受口端面～ 施工管理用突部 の隙間※8	箇所数									11 16	
	隙間ゲージ確認											
継輪	両挿し口端の 間隔(y1)※9	①										
		③										
		⑤									15	
		⑦										
継輪	受口端面～ 白線の間隔 (L')※9	①										
		③										
		⑤									14	
		⑦										
P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪	爪、押しボルトの確認 (P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪)									4 12 17		
	ゴム輪、押輪またはG-Linkの確認									9		
	押しボルト(100N・m) (フランジは全ボルト)	本数 トルク確認									4 12 17	
判 定										-		
備 考												

GX形継手チェックシート【直管・ライナ・異形管・継輪・フランジ・P-Link・G-Link (φ75~450) 共通】										
工 事 名					現場代理人	配管作業主任者	配管技士			
配管図 No.・測点 No.										
呼び径・管種										
施 工 月 日										
管Noおよび形状										
略 図										
挿し口突部の有無※1		挿し口突部の「有」「無」の区別を記入する。※挿し口突部が「無」の場合には、P-Linkもしくは挿し口リングを使用する。								
清掃・異物の除去		接合要領書に従って、管を清掃したら「OK」を記入する。								
滑 剤		接合要領書に従って、滑剤を塗布したら「OK」を記入する。								
接着剤使用の有無(フランジ/ガスケット)		ガスケットの仮止めに接着剤を使用したら「有」、使用しなければ「無」を記入する。								
受口溝(ロックリング)・ストップの確認		接合要領書に従って、受口溝、ロックリング、ロックリングが(直管受口の場合)又はロックリング、ストップ(異形管、継ぎ輪の場合)を確認したら「OK」を記入する。								
挿し口の挿入量の明示		のみ込み量の実測値(X)を白線で明示したら「OK」を記入する。(P-Link・ライ付直管受口の場合)								
白線A,Bの明示		白線A,Bを明示したら「OK」を記入する。(切管挿し口に接合する場合)								
直管・ライナ・Pリンク	受口面～ゴム輪 間隔(b)※2	全周チェック	全周にわたってb寸法が合格範囲に入っていれば「OK」を記入する。							
		①								
		②								
		③								
		④	① ③ のように受口端面からゴム輪までの間隔(b)(mm)を記入する。						1 3	
		⑤								
		⑥								
		⑦								
フランジ・Pリンク	受口面～白線 間隔(a) (フランジ継手RF-GF メタルタッチすきまゲージ1mm 厚チェック)	①								
		②	②のように受口端面から白線Bまでの間隔(a)(mm)を記入する。または、④のように受口端面からP-Link直部受口端までの間隔(a)(mm)を記入する。 フランジ継手RF-GFの場合、フランジ面間のすきまに1mm厚のすきまゲージが入らなければ「OK」を記入する。						2 4	
		③								
		④								
ライナ位置の確認	ライナ位置の確認(d部)※3	ライ付が受口奥部に当たっていたら「OK」を記入する。 ※直管(ライナ) - 直管								
	マーキング(白線)位置の確認※4	マーキング(白線)位置が全周にわたり受口端面の位置にあれば「OK」を記入する。 ※直管(ライナ) - 異形管								
	挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離の確認(異形管挿し口)※5	挿入量目安線(赤線)と受口端面間距離が全周にわたり10mm以下であれば「OK」を記入する。								
異形管・継輪	挿し口外周に受口端面位置の白線を明示したら「OK」を記入する。	挿し口外周に受口端面位置の白線を明示したら「OK」を記入する。 ※直管(ライナ) - 異形管								
	ストップの引き抜き	ストップを引き抜いたら「OK」を記入する。								
	抜き出しチェック(挿し口突部有)※7	接合要領書に従って、挿し口が抜け出さないことを確認したら「OK」を記入する。								
継輪	T頭ボルト	本数	締め付けたT頭ボルトの本数(本)を記入する。							
	受口端面～ 施工管理用突部 の間隔※8	箇所数	押輪の施工管理用突部と受口端面の間隔を隙間ゲージで確認した箇所数(箇所)を記入する。						11 16	
	両挿し口端の間隔(y1)※9	隙間ゲージ確認	接合要領書に従って、隙間のないことを隙間ゲージで確認したら「OK」を記入する。							
P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪	両挿し口端の間隔(y1)※9	①								
		③	両挿し口の間隔(y1)(mm)を記入する。(せめ配管の場合)						15	
		⑤								
G-Linkの確認	受口端面～ 白線の間隔(L')※9	①								
		③	挿し口白線Bと受口端面の間隔(L')(mm)を記入する。(順次配管の場合)						14	
		⑤								
爪、押しボルトの確認	爪、押しボルトの確認 (P-Link・G-Link・継輪用特殊押輪)	接合要領書に従って、爪および押しボルトを確認したら「OK」を記入する。								
		接合要領書に従って、ゴム輪、押輪またはG-Linkを確認したら「OK」を記入する。								
		締め付けたボルトの本数(本)を記入する。								
ボルト確認	押しボルト(100N・m) (フランジは全ボルト)	本数	ボルトを既定のトルクで締め付ければ「OK」を記入する。						4 12 17	
		トルク確認								
		全てのチェック項目を満足していれば「OK」を記入する。								
判 定										
備 考										

NS形直管チェックシート(φ500~φ1000)				令和 年 月 日																			
工事名				現場代理人	配管作業主任者	配管技士																	
図面No.・測点																							
呼び径																							
<p>挿し口挿入、受挿し間隔調整</p>  <p>ボルトナット取付</p>  <p>7 の最大-最小値の許容値</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th colspan="2">単位: mm</th> </tr> <tr> <th>呼び径</th> <th>X</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>500</td><td>31</td></tr> <tr><td>600</td><td>31</td></tr> <tr><td>700</td><td>32</td></tr> <tr><td>800</td><td>32</td></tr> <tr><td>900</td><td>32</td></tr> <tr><td>1000</td><td>33</td></tr> </tbody> </table>				単位: mm		呼び径	X	500	31	600	31	700	32	800	32	900	32	1000	33				
単位: mm																							
呼び径	X																						
500	31																						
600	31																						
700	32																						
800	32																						
900	32																						
1000	33																						
<p>3 バックアップリングの向き、分割部の位置</p> <p>(1)</p>  <p>(2)</p> 				<p>6 ゴム輪の出入り状態</p> <p>A B C</p>  <p>5mmを超える場合 5mm以下 0mm以下</p>																			
管 No.																							
管の種類																							
略 図																							
継手No.																							
清 掃																							
挿入量の確認	①						1																
	③																						
	⑤																						
	⑦																						
受挿し隙間の調整							2																
バックアップリングの向き、分割部の位置※1	(1)						3																
	(2)																						
滑 剤																							
押輪分割部の上下配置																							
ボルト・ナット	数						4																
	トルク N・m																						
	①																						
	③																						
押輪～受口間隔※2	⑤						5																
	⑦																						
	①																						
	②																						
ゴム輪の出入り状態※3	③						6																
	④																						
	⑤																						
	⑥																						
	⑦																						
	⑧																						
	めくれ																						
	①																						
白線B～受口間隔※4	③						7																
	⑤																						
	⑦																						
	⑦																						
判 定																							

判定基準

※1 バックアップリングの向き、分割部の位置

(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。

(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

※2 押輪～受口間隔:最大値-最小値≤5mm(同一円周上)

※3 ゴム輪の出入り状態

(1)同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

(2)ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態(右図)が存在しないこと。

※4 白線B～受口間隔:最大値-最小値≤X(X:上表参照)

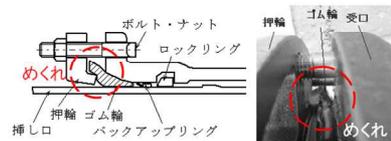
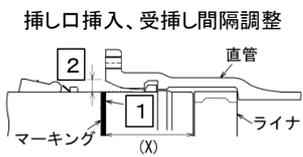
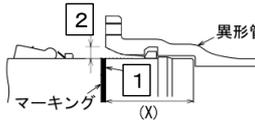
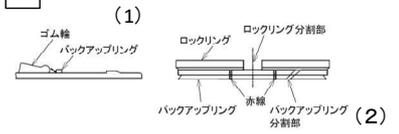
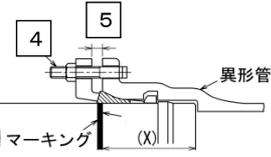
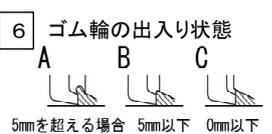


図 接合不良の例

NS形直管(ライナ使用)・異形管チェックシート(φ500～φ1000)				令和 年 月 日			
工事名				現場代理人	配管作業主任者	配管技士	
図面No.・測点							
呼び径							
<p>挿し口挿入、受挿し間隔調整</p>  <p>直管</p> <p>ライナ</p> <p>マーキング</p> <p>(X)</p> <p>挿し口挿入、受挿し間隔調整</p>  <p>異形管</p> <p>マーキング</p> <p>(X)</p>				<p>3 バックアップリングの向き、分割部の位置</p> <p>(1)</p>  <p>ゴム輪</p> <p>バックアップリング</p> <p>ロックリング</p> <p>バックアップリング</p> <p>赤線</p> <p>バックアップリング</p> <p>分割部</p> <p>分割部</p> <p>(2)</p>			
<p>ボルトナット取付</p>  <p>異形管</p> <p>マーキング</p> <p>(X)</p>				<p>6 ゴム輪の出入り状態</p> <p>A B C</p>  <p>5mmを超える場合 5mm以下 0mm以下</p>			
管 No.							
管の種類							
略 図							
継手No.							—
清 掃							—
挿し口の挿入量(X)の明示							1
挿入量の確認※1	①						1
	③						
	⑤						
	⑦						
抜け出しチェック							—
受挿し隙間の調整							2
バックアップリングの向き、分割部の位置※2	(1)						3
	(2)						
滑 剤							—
押輪分割部の上下配置							—
ボルト・ナット	数						4
	トルク N・m						
	①						
	③						
押輪～受口間隔※3	⑤						5
	⑦						
	①						
	②						
ゴム輪の出入り状態※4	③						6
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
	⑧						
	めくれ						
	判定						

判定基準

※1 挿入量確認: 現地で明示した白線上に受口端面があること。

※2 バックアップリングの向き、分割部の位置

(1)バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。

(2)バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

※3 押輪～受口間隔: 最大値-最小値≤5mm(同一円周上)

※4 ゴム輪の出入り状態

(1)同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

(2)ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態(右図)が存在しないこと。

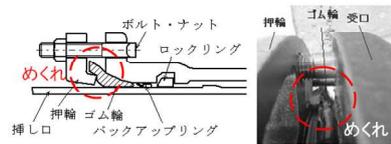


図 接合不良の例

NS形継ぎ輪チェックシート(φ500~φ1000) 令和 年 月 日

<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 20%;">工事名</td><td></td></tr> <tr><td>図面No.・測点</td><td></td></tr> <tr><td>呼び径</td><td></td></tr> </table>	工事名		図面No.・測点		呼び径		<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">現場代理人</td> <td style="width: 33%;">配管作業主任者</td> <td style="width: 33%;">配管技士</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </table>	現場代理人	配管作業主任者	配管技士			
工事名													
図面No.・測点													
呼び径													
現場代理人	配管作業主任者	配管技士											

3 バックアップリングの向き、分割部の位置

(1)

(2)

6 ゴム輪の出入り状態

A B C

5mmを超える場合 5mm以下 0mm以下

管 No.			
管の種類			
略 図			
継手No.			
清 掃			—
両挿し口端の間隔 (y ₁)	①		1
	③		
	⑤		
	⑦		
受口端面～白線の間隔 (L')	①		2
	③		
	⑤		
	⑦		
受挿し隙間の調整			—
バックアップリングの向き、 分割部の位置※1	(1)		3
	(2)		
滑 剤			—
押輪分割部の上下配置			—
ボルト・ナット	数		4
	トルク N・m		
押輪～受口間隔※2	①		5
	③		
	⑤		
	⑦		
ゴム輪の出入り状態※3	①		6
	②		
	③		
	④		
	⑤		
	⑥		
	⑦		
	⑧		
めくれ			
判 定			—

備考

1. 白線表示の位置

呼び径	ℓ ₁ (mm)
500	220
600	220
700	257
800	265
900	265
1000	268

2. 両挿し口端の間隔(y₁)
およびL'寸法(y₁の場合)

呼び径	y ₁ (mm)	L' (mm)
500	260	105
600	260	105
700	300	87
800	305	98
900	305	98
1000	310	103

判定基準

※1 バックアップリングの向き、分割部の位置

(1) バックアップリングの羽根部がゴム輪側にあること。

(2) バックアップリング分割部とロックリング分割部が重ならないこと。

※2 押輪～受口間隔：最大値-最小値 ≤ 5mm (同一円周上)

※3 ゴム輪の出入り状態

(1) 同一円周上にA、CまたはA、B、Cが同時に存在しないこと。

(2) ゴム輪の角部が押輪に乗り上げためくれ状態(右図)が存在しないこと。

注) 両挿し口端の間隔(y₁)は、一方から配管する場合には記入不要。
L' (受口端面～白線の間隔)は、せめ配管の場合には記入不要。

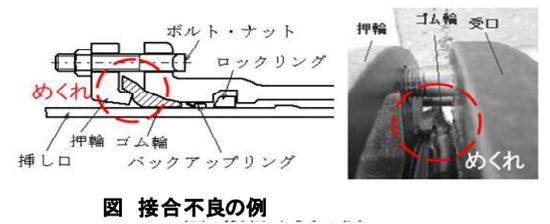


図 接合不良の例

(様式-5)

工 事 打 合 簿

発 議 者	<input type="checkbox"/> 発注者	<input type="checkbox"/> 受注者	発議年月日	年 月 日				
発 議 事 項	<input type="checkbox"/> 指示	<input type="checkbox"/> 協議	<input type="checkbox"/> 通知	<input type="checkbox"/> 承諾				
	<input type="checkbox"/> 報告	<input type="checkbox"/> 提出	<input type="checkbox"/> 届出					
	<input type="checkbox"/> その他 ()							
契 約 番 号			受 注 者 名					
工 事 名								
(内容)								
添付図 葉、その他添付図書								
処 理	発注者	上記について	<input type="checkbox"/> 指示	<input type="checkbox"/> 承諾	<input type="checkbox"/> 協議	<input type="checkbox"/> 通知	<input type="checkbox"/> 受理	します。
			<input type="checkbox"/> その他	[]				年 月 日
回 答	受注者	上記について	<input type="checkbox"/> 了解	<input type="checkbox"/> 協議	<input type="checkbox"/> 提出	<input type="checkbox"/> 報告	<input type="checkbox"/> 届出	します。
			<input type="checkbox"/> その他	[]				年 月 日

課長	主任 監督員	監督員

現場 代理人	主任 (監理) 技術者

(様式-6)

事故報告書

作成年月日：(元号) 年 月 日

工事名		事故発生日時	(元号) 年 月 日 時 分	
受注者			代表者	
会社所在地		Tel	現場代理人	
工期	(元号) 年 月 日 ~ (元号) 年 月 日			
事故発生場所				
概要	事故概要			
	対応処置状況			
被災者の状況	被災者氏名		被災者氏名	
	住所		住所	
	性別・年齢		性別・年齢	
	社員の別	1. 元請 2. 下請	社員の別	1. 元請 2. 下請
	診断結果		診断結果	
事故災害状況図				

(様式-7の1)

課長	副参事	チーフリーダー	主任監督員	監督員

出来形管理図表

契約 番号

(元号) 年 月 日

青森市公営企業管理者企業局長 様

住所
受注者
氏名 印

(元号) 年 月 日に契約しました『〇〇地区配水管更新工事』の
下記事項について出来形管理図表を提出します。

記

- 1 工事数量表
- 2 平面図・配管立体図
- 3 オフセット図
- 4 掘削土工・土被り管理図表
- 5 埋戻工・路盤工・仮復旧工管理図表
- 6 路盤検査結果表
- 7 舗装工管理図表
- 8 オーバーレイ工管理図表
- 9 切取供試体厚さ測定管理図表

1 工事数量表 (例)

主任技術者	印
現場代理人	印
測定者	印

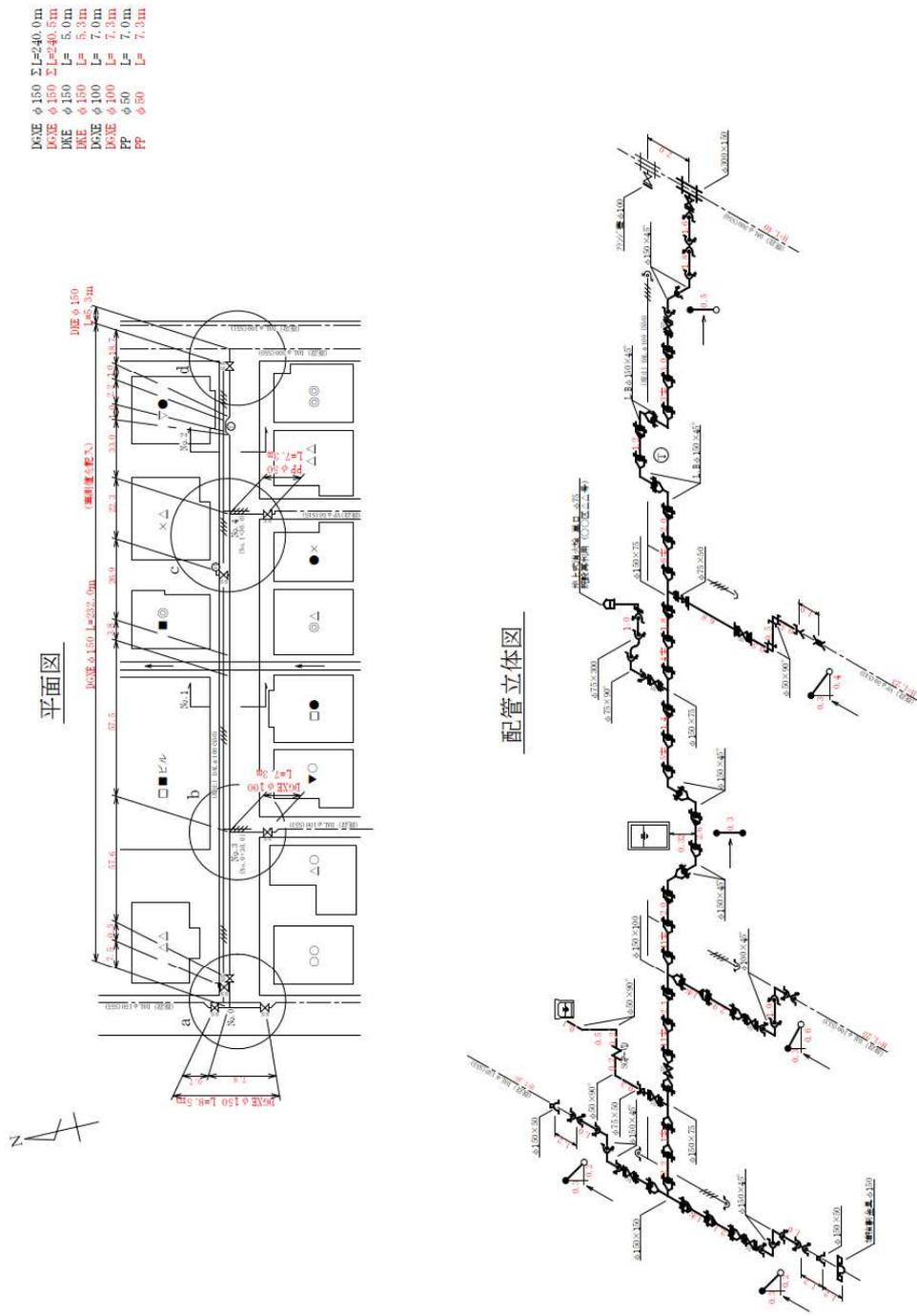
104

工 種	管種・口径	単位	設計値	実測値	差	検査値	摘 要
布 設	配水管	DGXE φ 150	m	240.0	240.5	+0.5	
	〃	DKE φ 150	〃	5.0	5.3	+0.3	
	〃	DGXE φ 100	〃	7.0	7.3	+0.3	
	〃	PP φ 50	〃	7.0	7.3	+0.3	
設 置	仕切弁	GX 形ソト両受 φ 150 10k	基	1	1	0	
	〃	SS 弁 φ 150 7.5k	〃	3	3	0	
	〃	SS 弁 φ 100 7.5k	〃	1	1	0	
	〃	SS 弁 φ 75 7.5k	〃	2	2	0	消火栓用 1 基 排水用 1 基
	〃	SS 弁 (V・S ソフト) φ 50 7.5k	〃	1	1	0	

設計値—黒書
実測値—朱書

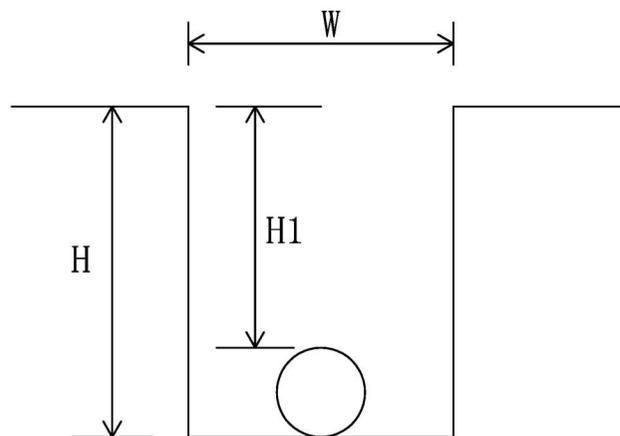
※布設延長の実測値は小数点以下第 2 位を四捨五入すること。それ以外は整数止めとする。

2 平面図・配管立体図



(様式-7の5)

4 掘削土工・土被り管理図表 (例)



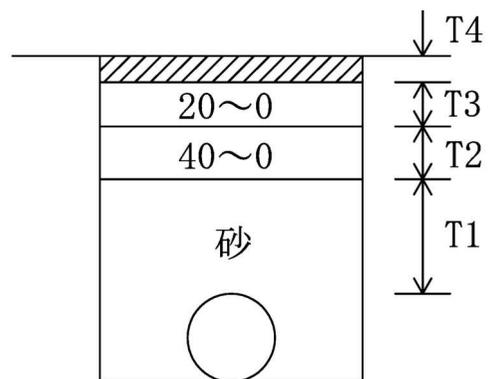
(単位 mm)

測定項目	W			H			H1		
	許容値			許容値			許容値		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
No. 0+50	—	—	—	—	—	—	800	810	+10
No. 1	550	550	±0	970	1000	+30	800	800	±0
No. 1+50	—	—	—	—	—	—	800	780	-20
No. 2	550	570	+20	970	970	±0	800	800	±0

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 6-1)

5 埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表 (例)



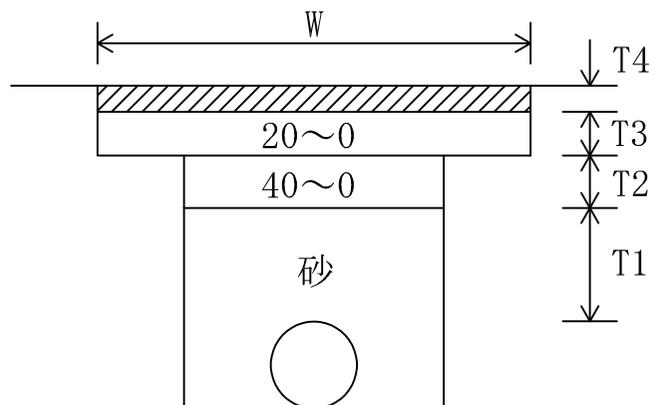
(単位 mm)

測定項目	T1			T2			T3			T4		
	許容値											
許容値	-20											
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
No. 1	380	410	+30	200	200	±0	190	190	±0	30	30	±0
No. 2	380	380	±0	200	210	+10	190	180	-10	30	30	±0

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 6-2)

5 埋戻工・路盤工・仮復旧工 管理図表 (例)



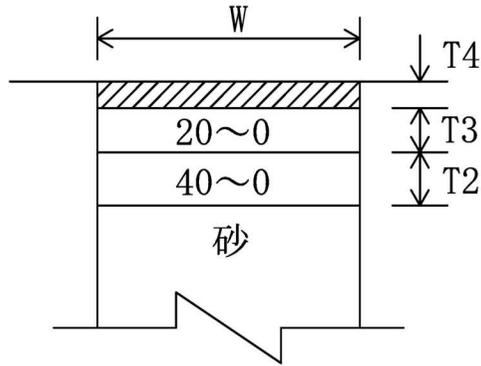
(単位 mm)

測定項目	W			T1			T2			T3			T4		
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
許容値	-30						-20			-20					
No. 1	1500	1500	±0	380	410	+30	200	200	±0	190	190	±0	30	30	±0
No. 2	1500	1500	±0	380	380	±0	200	210	+10	190	180	-10	30	30	±0

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 7-1)

6 路盤検査結果表 (例)



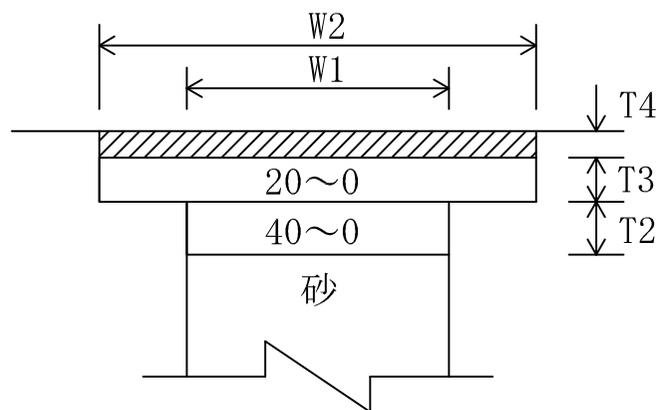
(単位 mm)

測定項目	W			T 2			T 3			T 4		
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
許容値	-30			-20			-20					
No. 0+30	550	710	+160	200	220	+20	190	190	±0	30	30	±0
No. 1+40	550	690	+140	200	230	+30	190	180	-10	30	30	±0

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 7-2)

6 路盤検査結果表 (例)



(単位 mm)

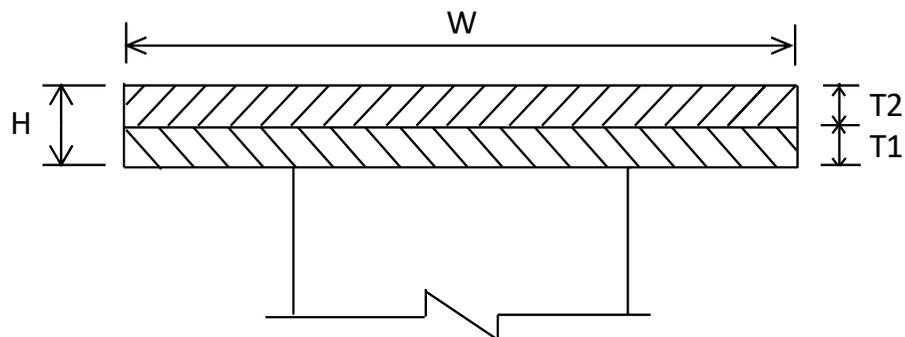
測定項目	W1			W2			T2			T3			T4		
	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
許容値	-30			-30			-20			-20					
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
No. 0+30	550	710	+160	1500	1510	+10	200	220	+20	190	190	±0	30	30	±0
No. 1+40	550	690	+140	1500	1510	+10	200	230	+30	190	180	-10	30	30	±0

設計値—黒書

実測値—朱書

(様式-7の8)

7 舗装工管理図表 (例)



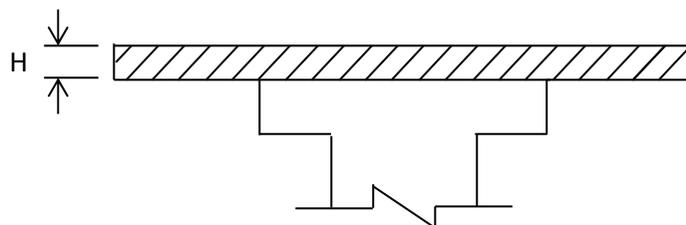
(単位 mm)

測定項目	W			H			T1			T2		
許容値	-25			-は認めない			-5			-5		
測点又は区別	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差	設計値	実測値	差
No. 1	1,500	1,520	+20	70	75	+5	40	45	+5	30	30	±0
No. 2	1,500	1,500	±0	70	70	±0	40	40	±0	30	30	±0

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 9)

8 オーバーレイ工管理図表 (例)



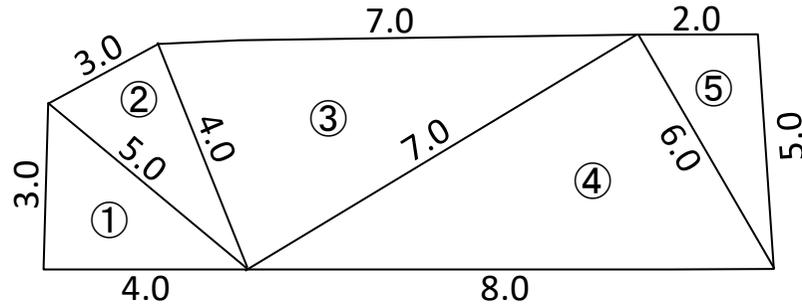
(単位 mm)

測定項目	H		
	許容値	-は認めない	
測点又は区別	設計値	実測値	差
No. 1	30	40	+10
No. 2	30	30	±0

設計値—黒書
実測値—朱書

(様式-7 の 10)

8 オーバーレイ工管理図表 (例)



(単位 m²)

測定項目	S		
許容値	-は認めない		
測点又は区別	設計値	実測値	差
監督員の指示する箇所	30.0	36.5	+ 6.5

(単位 m²)

	a 辺	b 辺	c 辺	S
①	3.0	4.0	5.0	6.0
②	3.0	4.0	5.0	6.0
③	7.0	7.0	4.0	13.4
④	8.0	7.0	2.0	6.4
⑤	6.0	5.0	2.0	4.7
合計				36.5

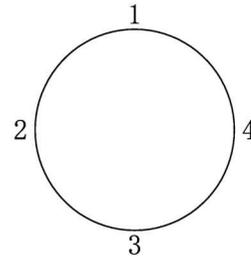
ヘロンの公式

$$S = \sqrt{t(t-a)(t-b)(t-c)}$$

$$\text{ただし } t = \frac{a+b+c}{2}$$

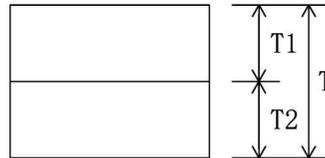
設計値—黒書
実測値—朱書

9 切取供試体厚さ測定管理図表



再生密粒度 As (13F) 30mm
 再生密粒度 As (13) 40mm

施工年月日 (元号) 年 月 日 ~ 月 日
 切取年月日 (元号) 年 月 日
 測定年月日 (元号) 年 月 日



(単位 mm)

測定項目	T1 (再生密粒度 As 13F)							T2 (再生密粒度 As 13)							T (表層+基層)						
許容値	-5							-5							-は認めない						
測点又は 区別	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差	設計値	実測値					差
		1	2	3	4	平均			1	2	3	4	平均			1	2	3	4	平均	
No. 1+12	30	33	34	32	32	32	+2	40	41	40	39	40	40	±0	70	74	74	71	72	72	+2
No. 2+ 5	30	32	33	34	34	33	+3	40	38	37	37	37	37	-3	70	70	70	71	71	70	±0

設計値—黒書
 実測値—朱書

※実測値の平均は小数点以下を切り捨てること。

(様式-8)

課長	副参事	チームリーダー	主任監督員	監督員

工事写真帳

契約番号 (元号) 年度 _____

工事名 _____

工事場所 _____

工期 着工 (元号) 年 月 日

竣工 (元号) 年 月 日

※着工・竣工の日付は契約工期を記入すること。

施工者 _____

配管工事施工管理基準

1 目的

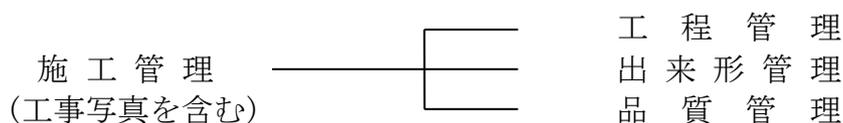
この配管工事施工管理基準は、配管工事の施工管理及び許容値の基準を定めたものであり、契約書及び設計図書に定められた工期、工事目的物の出来形及び品質の確保を図ることを目的とする。

2 適用

この配管工事施工管理基準は、当部が発注する配管工事について適用する。ただし、設計図書に明示されていない仮設構造物等は除くものとする。

また、工事の種類、規模、施工条件等により、この管理基準により難しい場合、基準、規格値が定められていない工種については、監督員と協議のうえ、施工管理を行うものとする。

3 構成



4 施工管理の実施

- (1) 受注者は、工事施工前に、施工管理計画及び施工管理担当者を定める。
- (2) 施工管理担当者は、当該工事の施工内容を把握し、適切な施工管理を行う。
- (3) 受注者は、測定・試験等を工事の施工と並行して、管理の目的が達せられるよう速やかに実施する。

5 施工管理項目及び方法

(1) 工程管理

受注者は、工程管理を工事内容に応じた方式（ネットワーク又はバーチャート法など）により作成した実施工程表により行うものとする。

ただし、応急処理又は維持工事等の当初工事計画が困難な工事内容については、省略できるものとする。

(2) 出来形管理

受注者は、出来形を出来形管理基準に定める測定項目及び測定基準により実測し、設計値と実測値を対比して記録した出来形管理図表を作成し、管理するものとする。

(3) 品質管理

受注者は、品質を品質管理基準に定める試験項目、試験方法及び試験基準により管理するものとする。

6 規格値

受注者は、出来形管理基準及び品質管理基準により測定した各実測（試験・検査・計測）値は、すべて規格値を満足しなければならない。

7 その他

受注者は、出来形管理図表及び工事写真を逐次記録・作成し、各工程の施工段階及び完成後に確認できない箇所の施工状況、出来形寸法、品質管理状況、工事中の災害状況等を第6章「工事写真撮影方法」により撮影し、適切な管理のもとに保管し、監督員の請求に対し直ちに提示するとともに、工事検査時に提出するものとする。

※本仕様書で規定していない許容値及び基準については、青森県県土整備部「土木工事施工管理基準及び規格値」及び日本水道協会水道工事標準仕様書【土木工事編】に準ずる。

出 来 形 管 理 基 準

工種	項目	種別	許容値	管理基準	
				測定基準	管理方法
延長	長さ L		200m 未満 -2m 200m 以上 -1%	管種口径毎	
掘削土工	幅 W		-30mm	No 毎	
	深さ H		-30mm		
	土被り H		±50mm	No 及び 50m 毎	
路盤工	厚さ T	上層	-20mm	No 毎及び監督員 の指示する箇所	実測値で管理図表 を作成する。 設計値と実測値に差異が生じる場合は監督 員に事前に協議すること。
		下層	-20mm		
舗装工	幅 W		-25mm	No 毎及び監督員 の指示する箇所	
		表層	-5mm		
	基層	-5mm			
	表層+基層	-は認めない			
基礎砕石工	幅 W		設計値以上	施工箇所	
	厚さ T		-30mm		

※この許容値は、設計図書及び 1.1.1(2)に規定する図書等に適合しているかを確認し、施工者の適正な管理及び施工技術の向上を目的とし、また採点評価の対象とするものであり、この許容値を外れたことにより設計変更の対象とするものではない。

品質管理基準

工種	検査項目	検査方法	規格値	検査頻度	備考
水圧検査	3.1.25 水圧検査による	〃	〃	〃	
水質検査	3.1.26 水質検査による	〃	〃	〃	
管の接合	ダクタイル鋳鉄管接手部検査	・チェックゲージによる測定 ・目視	・各接手部所定の寸法を満たすこと ・ボルトの締め付けトルクを満たすこと	すべての接手续続箇所について実施	様式-4 チェックシート使用
管の溶接	日本水道鋼管協会「WSP008 水道用鋼管現場継部の非破壊検査基準」による	〃	〃	全国簡易水道協議会「水道事業実務必携」による	
外面塗装	日本水道鋼管協会「WSP009 水管橋外面防食基準」及び日本ダクタイル鉄管協会「便覧」による	〃	〃	〃	
舗装	4.3.2 アスファルト舗装の施工による	〃	〃	6.2 撮影方法による	